

大雨で浸水・冠水したほ場は、 防除等で慎重な対応が必要です！

水管理（全ほ場共通）

- 出穂前後10日間（計20日）は特に水が必要な時期のため、やや深水としましょう。

水害で2回目の穂肥が遅れた場合の対応

- 2回目穂肥の施用が遅れた（遅らせた）場合は、出穂5日前までを目途に減肥して施用しましょう。
- 良食味生産のために速やかに肥効が現れる肥料（有機質割合の低い肥料）をできる限り選定しましょう。

例：有機30魚沼口マン穂肥専用 6～7kg/10a（窒素成分0.7～0.8kg）程度

- ※ 冠水した場合には、茎葉の伸長や葉色が濃くなるなどの症状が出る場合があります。
- ※ 濁り水には、高い栄養分が入っている場合がありますので、濁り水が流入したほ場では、葉色の推移に注意しましょう。
- 2回目の穂肥施用前のほ場で、茎葉の伸長や葉色が濃くなるなどの症状が著しい場合は、穂肥を施用しないようにしましょう。

- ※ 大雨の直前に2回目穂肥を施用した場合で、大雨により肥料が流出し、葉色が低下する場合には浸水・冠水した場合同様に、出穂5日前までを目途に減肥して施用しましょう。

浸水・冠水した場合の病虫害防除（裏面参照）

- 浸・冠水した場合は稲体が軟弱となり、いもち病、白葉枯病、褐条病（株腐症状）、アワヨトウ、イネツトムシなどの病虫害が発生しやすくなります。
- 葉いもちの発生状況に応じて穂いもち防除を徹底するとともに、害虫の発生に注意し、ほ場をよく見回り、早期発見・防除に努めましょう。
- ※ 特別栽培等を行っている場合の追加防除については、米の需給調整や環境保全型農業直接支払い等に影響する場合がありますので注意が必要です。

皆様の安全が第一です

- 稲作にとって重要な時期ですが、引き続き大雨警報等の気象情報を注意深く確認して、作業にあたっては安全第一をお願いします。
- 病虫害、気象情報等についてもできる限りタイムリーに情報提供させていただきますので、稲作情報携帯メール会員に登録してください。登録方法は、営農センターへお問い合わせください。

不明な点はJA営農センターまたは普及センターまでお問い合わせ下さい。

水害による病害虫防除について

◎ 水害後は稲体が軟弱となり、いもち病、白葉枯病、褐条病（株腐症状）、アワヨトウ、イネツトムシなどの病害虫が多発生しやすくなります。ほ場をよく見回り、早期発見、早期防除に努めましょう。

水害後に懸念される病害虫

いもち病： 葉いもちの発生状況に応じて穂いもち防除を徹底する。

白葉枯病： 発病は感染から5～10日後に現れる。薬剤防除はないので、早期排水を徹底する。

褐条病： 幼穂形成期に1～3日間冠水すると、株腐症状をおこすことがあります。冠水期間が長いほど発生が助長される。薬剤防除はないので早期排水を徹底する。

アワヨトウ： 浸・冠水田では、集中加害を受けやすいので、発生を認めたら直ちに薬剤防除を行う。

イネツトムシ： 葉色の濃いほ場は加害が多くなるので、葉の綴り始めとなる幼虫の孵化初期（8月上旬）に薬剤防除を行う。

病害虫名	薬剤・規格	使用時期	使用量 (10a当り)	単価
いもち病	ブラシン粉剤DL 3kg	収穫21日前まで	3～4kg	1,180円
アワヨトウ	ディプテレックス粉剤 3kg	収穫14日前まで	4kg	870円
イネツトムシ	MR. ジョーカー粉剤DL 3kg	収穫7日前まで	4kg	1,390円

※ 上記の薬剤は、各営農センターにて準備しております。

※ 特別栽培等を行っている場合、追加防除は事務局の指示に従うようお願いします。